

# 株式会社カサイテクノ

## ■平成24年度テーマ

部品製造機器増設による生産プロセス強化事業

## ■平成24年度概要

現在、ユーザーからの引き合いは多数来ているものの、既存設備状況では受注の大幅な増加に対応することは困難な状況にある。本件機器を導入することで生産プロセスを改善し、製造能力の向上を図る。

## ■平成24年度分類

＜事業類型＞ 設備投資のみ

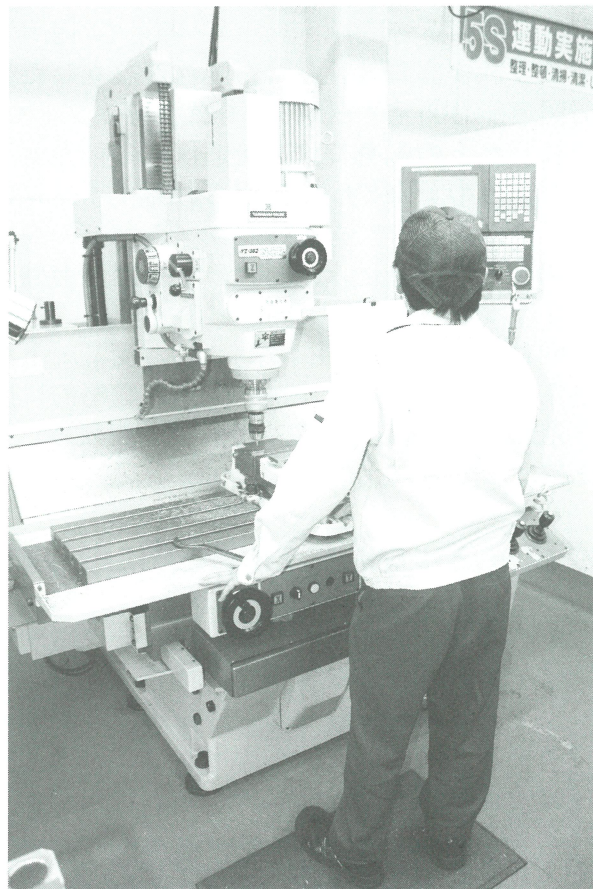
＜競争力強化の形態＞ 生産プロセス強化型

＜22分野技術＞ 切削加工

## ■事業の概要と成果

フライス盤を導入し、1名増員し能力アップを図る。現状では既設機を含め130%位の能力。加工速度が速いため、多数製作ができ、内製化にもつながった。

ワイヤーカット機を導入し、既設機と合わせ深夜運転開始に至る。既設機を含め1年後には200%以上の能力発揮を目指す。



# 好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて  
株式会社カサイテクノ（駒ヶ根市）

さまざまな品種に対応できる汎用機開発に特化。  
“段取り替え”のDNAのさらなる進化をめざす。

## 品種替えができる汎用機の開発に特化

プレス機械等で金型や治具を交換するように、自動組立機のアタッチメント等を交換するだけで形状の異なる何種類ものワーク（部品）の生産に対応できる、カサイテクノの「高汎用クイックチェンジシステム」が注目を集めています。



同社は自動車用スイッチ製造を主力事業とする「カサイ製作所」（北名古屋市）の長野工場としてスタート。省力化機器の開発・製造メーカーとして2006年、分離独立しました。

車載用部品、日用品など、さまざまなプラスチック部品の自動組立機を手がける中で、いかに合理化とコストダウンが図れるかを追求。ベースとなる機械のパーツ、ツールを取り替えることで簡単に品種替えができる汎用機の開発に特化してきました。

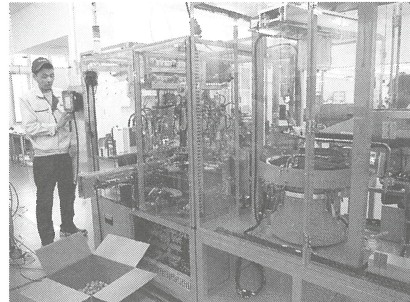
例えば、小さなワークを整列させて次の工程に流す「ボールフィーダー」「直進フィーダー」では、ボール部、シュート部や品種に応じたツールを段取り替えするだけで多品種のワークに対応した生産が可能。さらにロボットと組み合わせたり、自動検査機も手がけています。

「必要なモノを、必要な時に、必要な量だけ生産する」ことを実現したこのシステムは、トヨタの「ジャストインタイム生産システム」そのもの。同様の開発を専門に手がけるメーカーは他になく、変化のスピードが速いものづくりの現場で高く評価されています。瀧本好美社長は「培ってきた“段取り替え”のDNAをさらに進化させていきたい」と力を込めます。

## 企業理念を実現する高い利益率

今回のものづくり補助金は加工機械（ワイヤカット、フライス盤）への投資のため。同社ではリーマンショックで苦境に立たされた経験か

ら、売上高よりも内容の充実を徹底。積極的に内製化を進めるとともに、社内設備で製造可能な設計を心がけています。



一方、顧客開拓は「機械要素技術展」「部品供給装置展」といった展示会で商談し成約にこぎつけた企業との直接取引が中心。効率的な営業を実現しています。

このような努力が奏功。瀧本社長は「長引く不況の中、売上げはここ数年横ばいですが、利益率は着実に向上しています」と胸を張ります。

同社の理念は「社員の人間性の向上＝会社の成長」。高い利益率はその実現に欠かせない要素です。新入社員は県伊那技術専門校で6カ月間学んだ後、社内3部署を半年ずつ経験。入社2年後に配属が決まるまで徹底して本人のやる気に応え育てます。さらに福利厚生や賞与（年間4カ月）の充実なども定着率の高さにつながっています。

「私も含めて社員全員の幸福を優先し、地域からうらやましがられる会社になりたい」と笑顔で語る瀧本社長。「それを実現するために『5S』に力を入れています」。

社員26人の少数精鋭集団が日本のものづくりをしっかりと支えています。



## 株式会社カサイテクノ

代表者 代表取締役社長 瀧本好美  
創業 2006（平成18）年9月  
資本金 1,000万円 従業員数 28人  
本社 駒ヶ根市赤穂15-503  
TEL 0265-83-4160 FAX 0265-83-4162  
事業内容 自動組立機・省力機器及び治具の設計・製造

